

一の宮町建築業組合が
手作りエコボックスを寄贈



森校長にエコボックスを寄贈する
甲斐さん(中央)と住さん(左)。

一の宮町建築業組合(組合員7名)は3月22日、切り落とし材を利用したエコボックス(プリント回収箱)21個を製作し、宮地小学校に寄贈しました。

このエコボックスは、大工仕事で大量に残されるスギやヒノキなどの「切り落とし材木」を利用し、仕事の空き時間を利用して製作されたものです。「木の温もりや手作り感を感じて、「造る」ということに興味を持ってもらいたい」と、組合員がひとつひとつ丁寧に作り上げました。

同組合は以前より高齢者一人暮らし世帯の小規模な修繕など、地域に根付いたボランティア活動を続けており、組合員の甲斐氏は「今後も皆さんの心に残るような活動を続けていきたい」と語られました。

大地の恵み「泉水」を活かした商品が登場！
商工会がミネラルウォーター(ペットボトル)を開発



みず
泉水クイーンをつとめる藤原さん(左)と山部会長

「恋してる♡」などのキャッチフレーズをつけ、阿蘇市商工会(山部謙一郎会長)が開発した、2種のミネラルウォーター(ペットボトル)が斬新なアイデアで話題となっています。商品開発は、商工会が以前から取り組む、地域資源∞全国展開プロジェクトの一環で行われ、九州の水がめ「阿蘇の水」を全国にアピールすることが大きなねらいです。

社会貢献もプラスされており、赤のラベル「恋してる♡」は売り上げの一部を日本乳がんピンクリボン運動へ、また、黒のラベル「GEO POWER WATER」はASO環境共生基金へ寄付されます。商品は阿蘇市内のお店で販売予定です。

卒業記念で橋名板、案内板を製作 阿蘇西小学校、坂梨小学校



3月17日、広域農道の整備に伴い、大阿蘇環境センター未来館前に新しく架け替えられた「枳橋」が完成し、阿蘇西小学校卒業生22人が卒業記念で製作した橋名板が設置されました。完成した枳橋に訪れた卒業生は、渡り初めを行い大変喜んでいました。

一方、坂梨小学校では、卒業生20人と保護者らの協力のもと、高さ250cm、幅200cmの案内板を小学校前に設置しました。児童は電動ノミを使用して、保護者から寄贈された松の木を丁寧に削り上げました。堂々たる案内板が設置され、卒業生は歓声を上げて喜びました。



▶ 設置された橋名板。その他にも「げずばし」、「市ノ川」などが製作されました。

▶ 坂梨小学校卒業生の皆さん。



◀ 渡り初めを行う阿蘇西小学校卒業生の皆さん。